

〈授業デザイン構想例 10〉



高等学校芸術科(音楽 I) 「変奏曲の創作に挑戦しよう(創作)」

教科としての特性

- ・〔共通事項〕と関わらせた音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
- ・芸術科音楽の特質に応じた言語活動である、「音や音楽及び言葉によるコミュニケーション」で他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていく。

本教科で育成を目指す資質・能力

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

【高等学校学習指導要領 芸術 音楽 I 目標 P141】

本教科で働かせる見方・考え方

音楽的な見方・考え方とは、感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などに関連付けること

【高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽)編 P21】

視点1 各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

【高等学校学習指導要領 芸術 音楽 I 目標(3) P141】

視点2 授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p>指導の個別化</p> <p>生徒が自らどのような方向性で学習を進めていったらよいかを考えて取り組めるような指導の工夫。(例:「Webソフトやアプリ上で創作するのではなく、楽器で創作したい!」→目的に応じて、手段は生徒が選択できるようにする)</p>	<p>学習の個性化</p> <p>全ての生徒が目標を達成することを目指し、生徒の学習進度、学習到達度等に応じ、個々の表現したい内容に寄り添いながら個別にアドバイスする等の指導の工夫。(例:「もっと楽しい雰囲気になりたい!」→リズムを変え、跳躍進行にするなど、要素の働きを例示。先哲の残した作品などからアイデアを得る)</p>	<p>協働的な学び</p> <p>多様な他者と創意工夫した内容について意見を交わし合い、多様な意見に触れることで創意工夫を深める。寛容な態度の育成。(例:他者と協働してまとまりのある変奏曲を創作する。自己の作品に対し他者から感想をもらうことで、表現を再調整する)</p>
--	---	--

視点3 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・創作アプリ…楽譜や楽器に苦手意識のある生徒にも直感的に音を選択し創作が可能。毎時のファイルを残し、創作経過や自己の変容も見られる。楽譜(PDF)や音源(mp3)への書き出し機能を用いて、提出・共有も可能。
- ・プロジェクタ、電子黒板
- ・プレゼンテーション用ソフト
- ・コラボレーションプラットフォーム…課題や作品の提出・目標や学習内容の提示・楽譜や音楽ファイルの提示・他者参照などに活用。

視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にして授業デザイン（題材）を構想するにあたってのポイント

〔共通事項〕に示す資質・能力と併せて、アに示す「思考力，判断力，表現力等」に関する資質・能力，イに示す「知識」に関する資質・能力，ウに示す「技能」に関する資質・能力を育てていくことが指導のねらいとなる。生徒の興味・関心や学習状況等に応じて，指導内容の焦点を絞るなどして，各学校において創意工夫を生かした創作の指導を行うことが重要である。

【高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽）編 P40】

題材名：変奏曲の創作に挑戦しよう（創作）

時	学習活動（全8時間）	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
1	<ul style="list-style-type: none"> 変奏曲について知る（説明・鑑賞）。 グループでどのような変奏曲を創作するか、イメージを固める。 創作アプリの操作に慣れる。 （変奏する原曲については、生徒の実態等に応じ選曲する）				<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト ・プレゼンテーション用ソフト ・創作アプリ
2	<ul style="list-style-type: none"> 変奏のヒントを確認する。 各自の担当部分を決める。 個人の担当部分について、構想を練る。 				<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト ・プレゼンテーション用ソフト
3 4	<ul style="list-style-type: none"> 個人の担当部分について、構想を練る。 先哲の作品などからアイデアを得る。 創作アプリや楽器を用いて変奏する。 （音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって変奏する）				<ul style="list-style-type: none"> ・コラボレーションプラットフォーム上の音源・楽譜・創作アプリ
5	<ul style="list-style-type: none"> 作品をオンラインホワイトボードツールに保存・共有する。 自分の作品の工夫した点と音源をグループに発表する。 グループのメンバーからフィードバックをもらい、各自で再調整する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインホワイトボードツール ・創作アプリの再生機能
6	<ul style="list-style-type: none"> 各自の作品を持ち寄って、グループでつなげていく。 完成作品をオンラインホワイトボードツールに貼り、グループでの発表準備をする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・創作アプリ ・オンラインホワイトボードツール
7	<ul style="list-style-type: none"> グループ作品を全体に発表する。 各グループの作品に感想を記入する。 クラスメイトからのフィードバックを基に、グループで振り返る。 				<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト ・オンラインホワイトボードツール
8	<ul style="list-style-type: none"> 1時とは違う変奏曲を鑑賞し、曲想と音楽の構造との関わりを結びつける。 個人で振り返り、変奏することや変奏曲について、自分なりの楽しみ方を考える。 				<ul style="list-style-type: none"> ・コラボレーションプラットフォーム

文部科学省 2019 高等学校学習指導要領 解説 芸術（音楽）編

文部科学省 2021 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 芸術（音楽）】